

## ■有漢郷のおこり

---

「有漢郷」の名が文書の上に初めて載るのは、8世紀奈良時代 東大寺の正倉院文書においてである。「備中国、天平十一年大税負死亡人帳、賀夜郡有漢郷死亡人貳人、免税壺伯捌拾束」とあるのが最も古い記録と思われる。

この「有漢郷」の呼び方については、平安時代に出された「和名抄」（926年頃 源順が著す）によると、「宇萬（うま）」（旧訓）と「宇賀邇（うかに）」（高山寺本の訓）の二通りがあるが、有漢をウマとよんだとしても根拠のあることではあるが、現在の「ウカン」という呼び方とは大変かけはなれたものである。そこで「県通史」などでも「ウマ」の訓は誤りであって、後の高山寺本に見られる「宇賀邇（うかに）」という訓が正しいのではないかとしている。「ウカニ」とは、鵜（う）をもって魚（アユ）を取る品部（しなべ）である鵜飼部（ウカイベ）が転じたもので、ウカイ→ウカニ→ウカン（有漢）（宇甘）となったものだという。